

昨今の債務危機による不安定な市場環境にも関わらず、ヨーロッパの SRI 市場が成長を続けています。2011 年 6 月時点での SRI 資産残高は、1 年前に比べて 12%増の 840 億ユーロ、SRI ファンドの数も 1%増えて 886 本となりました。同期間でのヨーロッパ全体の運用資産が 6%増であったことと比べても、SRI の成長がうかがわれます¹。

2011 年 10 月に発表された、ヨーロッパの SRI 調査機関 Vigeo のレポート²によると、国別の SRI 資産残高が最も大きいのはフランスで、市場の 32%を占めており、続いてイギリスが 12%、スイスが 11%と続いています。フランスは、SRI ファンドの数でも最多であり、ヨーロッパ最大規模、約 75 億ユーロの SRI ファンドを抱えています。一方、ファンドの普及率では、ベルギーやオランダが伸びています。そのほか、ドイツの 3 つの SRI ファンドが、ヨーロッパ全体のトップ 10 に入るなど、SRI 市場の拡大が続いています。

同じくヨーロッパの SRI 調査会社 Novethic が 11 月に発表した、「欧州機関投資家における ESG の理解と実践」というレポート³は、投資家による ESG リスクへの関心が高まっている中で、SRI に対する考え方が国ごとに異なっていると指摘しています。ESG を運用に組み入れる動機として、「持続的発展への貢献」と答えた投資家は、2010 年から 2011 年の間で、5%増加し 51%に、「長期のリスクマネジメント」と答えた投資家は、6%増加し 25%となっています。国別で見ると、SRI の普及率が伸びているベルギーやオランダでは、フランス・イギリスと比較して、倫理的側面から特定の産業を投資除外する投資家が多くなっています。2010 年 8 月には、クラスター爆弾の製造・使用などを禁止するオスロ条約が発効し、ベルギーなど 5 カ国⁴では、国内の法律によって関連企業への投融資を禁じるなど、兵器産業の除外に対する注目度が高くなっています。

ヨーロッパで SRI の拡大が続いているのは、ESG が投資機会となり、長期的なリスクを低減するという認識が浸透していることに加え、投資家の様々な価値観を投融資に反映する動きが増えていることも要因と考えられます。ヨーロッパでは、持続的な発展への貢献に価値を見出す投資家が増え、ESG を考慮した投資がメインストリームになりつつあります。一方で、日本においても、公的年金の一部で、ESG に積極的に取り組む企業の経営上のリスク軽減効果や持続性を鑑み、SRI を採用する動きが見られます。年金等の機関投資家から ESG を考慮した投融資が広まり、SRI が一層浸透していくことに期待します。

¹ EFAMA Quarterly Statistical Release No. 46 (Second Quarter of 2011), No. 42 (Second Quarter of 2010)

² Vigeo プレスリリース (2011 年 10 月 19 日付) 「The growth of European SRI mutual funds continues」

³ Novethic SRI Studies (2011 年 11 月) 「European asset owners' ESG perceptions and integration practices 2011」

⁴ International Campaign to Ban Landmines (2011 年 11 月) 「Cluster Munition Monitor 2011」